

ゴルドン女史著
菅原教造譯述

美學講話

全十八講

『婦人と子ども』附録

第一講 入門

第二講 心像の話

第三講 感情の話

第四講 藝術の起原と職分

第五講 リズムの話

第六講 舞踊の話

第七講 音楽の話

第八講 色彩の話

第九講 線と形の話

第十講 圖案の話

第十一講 建築の話

第十二講 彫刻の話

第十三講 繪畫の話

第十四講 言語の話

第十五講 詩の話

第十六講 戯曲の話

第十七講 散文の話

第十八講 美と藝術

第九講 線と形の話

目次

線の實體性質及び特徴——垂直線——水平線——對角線——縞——三角・角錐及び通景——正方形——長方形——曲線
——圓周及び弧——蛇線——一般學說との係關

線の實體・性質及び特徴

數學的に云へば

線には實體又は性質と云ふものがなく、唯長さや方向があるだけであります。然し藝術上の目的に對しては、線は更に實體的の者であり、且其の性質は重要な研究課題となります。スケッチの場合

には、線の性質、たとへば廣狹・明暗・粗澁・平滑など云ふものには、描かれた物の地合を示させる事も出來ます。即ち織麗な灰色の線は地合の優雅を表はし、織麗な黒線は精確と硬直とを表はします。又廣い荒つばい線は粗豪堅實を現はします、従つて百姓の粗服、木靴、又は草葺きの小屋か、裏

庭の垣などの見える所をうつすに都合が好いのであります。それから廣い黒線は明確と獨立の特徴を持つて居ります。

線の質よりも更に大切なのは線の方向と直線曲線と云ふが如き、線の特徴であります。次に最も簡単な抽象的の線は、何物をも描寫して居なくとも、或情的効果と、それ自身としての意味とがあるといふことを述べやうと思ひます。

垂直線

眞直と直立とは殆ど同じものに見られて居ります。此の事實と、垂直線の起させる情調

とは、一部分は觀念的聯想に依り、又一部分は斯様

云ふ線が刺戟する運動的反應に依て説明が出来ます。直立線と關聯して居る觀念的要素の中には、塔や柱がはいつて居ります。塔は昔は戰時の砦及要害であり、柱は建築物の最も顯著な支障物でありました。爲に塔と柱とは、力と頼りになる者の象徴又は隱諭になつたのであります。又人の直立の姿勢と、勇氣や徳との間には、慣例的な關係があります。垂直線を人の形に使ひますと、禁欲主義者の縮形を暗示することもあれば、亦將に活躍せんとする運動家の力の籠つた様子を示すともあります。今一つ重要な垂直線との聯想は、宗教上の崇敬を表はす時に出て參ります。これはさう云ふ場合には、必ず神と信者との間に空間的な關係があるからで、神は普通上方に住む者と思はれて居るので、信者は實際神を仰ぎ見ます。斯様にして敬虔及靈的「歡喜」の心持と、直立線との關係が生じたのであります。斯う云ふ事を考へて見ますと、垂直線に對する感じを決める本になる聯想が分つて來ます。

垂直線を見て直ぐ起る運動的反應は、上から下へ遣る眼の運動と、自分を細長い形に引き延ばさうとする身體全體の摸倣的傾向とから成つて居ります。是は當然注意の態度であつて、嚴肅では有りませんが、不平衡でも無く、又見供ないこともありません。この身體の姿勢から來る感じは、其の線に對する感じを決めると云ふより、寧ろ線の感じそれ自身であります。かういふ經驗を基礎として出來た學説は、なほ後に述べませう。

直立線の中には、人に依ては曲線の美よりよるこぶ様な峻嚴な端正の美があります。直線は濫用するときごちないものが出來ますが、これを適度に使へば、簡素・僭健・生氣を興へる事が出來ます。建築などはジョットーの塔の大きな垂直線が有名であり、彫像では希臘の勇士テューサーの弓を引いて居る所の如きは、思ひ切つて強い垂直線を使つてあります。繪畫ではベックリンの「死の鳥」に長い垂直線を使つて、非常な威嚴と高越の感じと

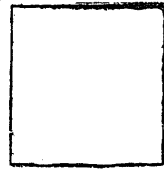
を添へて居ります。バーン・ジョーンズは垂直線を利用して其の繪に建築的效果と禁欲の調子を表はして居ります。

水平線 水平線は静けさと纏まりを代表する線で、横臥と静平と弛緩とを強く暗示して居ります。海及平原の水平線は、常に遠隔の想ひを起させ、長く廣がつた平地は、其時の氣分に依ては、人に忍耐と、地球の低さ詰まらなさを感じさせます。此第二の場合は、悲創な迷想ではありませんが、併し悲創な迷想は、自然現象に對する時起る情緒を、人に自ら知らしめるものであります。此觀念的要素に加へて、長い單調な水平線には、どこか催眠的な處があります。水平線には、眼を上へ向ける用も下へ向ける用もなく、眼の運動の中で一等樂な、一方から今一方へ眼を走らせる運動の外、何にもしないで済みます。かう云ふ線の効果は、バーン・ジョーンズの繪の中に非常によく出て居ります。「眠れる美姬」の中には、前景の石疊も、後方の

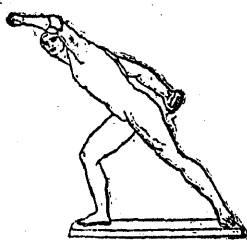
掛幕にも、女王の寝椅子にも、王の玉坐にも、長い水平線が使つて有ります。亦横になつて居る人達の姿も、繪全體に亘つてリズム的な起伏を描くために、線が色々ではありませんが（此繪は小壁の圖案）一體に廣い水平線を成して居り、魔睡の状態が完全に現はれて居ります。「妖姬サースの酒」と云ふ同じジョーンズの繪でも、水平線が重だつた線になつて居り、全體の繪の輪廓は、低い長方形であります。低く身を屈めて腕を差し出して居る魔姬の姿、動物どもの背部、海の水平線が透いて見える低い窓の扉、是等が一樣にどうとも爲やうのない倦怠の心持と、恍惚として睡を催す様な魅力とを助成して居ります。

對角線 對角線に對しては、注意が一點にとゞまらず、上から下へ、又は下から上へ急速に動きますから、之は活動の線で有ります。激しい運動の場合たとへば競争・船漕ぎ・伐木・重荷を引く等の仕事は、身體を斜線様に致させます。對角

線を見ますと、斯うした記憶が臍ろ氣に浮んで参ります。又斯様云ふ線は、線自身として不安定に



する三角形よりも、確りとして居て受け身であります。對角線は、單獨では其位置が餘り不安定で



を使ひます。此の圖のポルゲーズの戰士の形でも

思ひ切つた斜線が、右足と右腕の位置は償はれて確りとなつて居ります。

人物畫の場合には、體を斜にして足を前に踏み出し、かけ衣かぎが後の方へなびいて居る様に描いて、運動を表はすのが並みの遣り方でありますが、亦其形が、實際動いて居る様には見せずに、運動を示すことも出來ます。其適例はピッツブルグ博物館



の壁畫で、アレクサンダーがいろ／＼の挿話を繪にして澤山描出致しました。其等の繪畫中の活動の感じは、多く鋼鐵の梁の長い斜線と火から發する長い光線とから出て居ります。

今一つの例は、此の圖に示したロダンの「愛の飛去」であります。これでは婦人は坐つて思ひに耽つて居るのではなく、勢よく彈ねて居る對角線が、如何にもよく別離の感情を表はして居

ります。パッラー女史の古名家の面白い研究中には、斜線・V字型の構圖は、これなくては靜かに過ぎ沈み過ぎる繪に、勢を添へんがために用られて居ると申してあります。

主要な三種の直線の性質に就ては、上に申しましたから、これから簡單な形、又は直線の配合に就て申しませう。

竊 同一方向に走つて居る縦竊なり横竊なり許りの模様は、最も強い又最も簡單な模様であります。ラスキンは、之は整列に適して居るといふ説で、色を「帶狀雲狀及火陷狀」の如き簡單な形に用ゐる時のみ、其の美が十分に發揮されると云つて居ります。西班牙及伊太利の寺院には、外面を白と黒とのだんだらの竊にしたもの、フロレンスの寺院の様に淡紅色と白との竊もあります。竊で色を出すのは、建築に有利なばかりではなく、繪畫にも有效であります。普通の色の用法は、描いた形をまとめる爲めに支配されるには及ばず、畫

家の選擇次第で、竊なり圓なり何なりして關ひま

せん。ホイッスラーの船の繪は、水平線の配置の好例で、この場合は黒と黄とのだんだらであります。線の幅と集め方とを變へれば、竊にもいろ／＼の變化が出來ます。此の圖は其中の三種許りを表はして居ります。

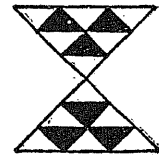
三角・角錐及通景 ピラミッド・クワイスタ 三角は邊

に圍まれた形の中で、最も簡單なものであります。其の對角線と銳角とは、きつかりした勢の好い鋭い特徴を成して居ります。次の頁の圖は三角を重ねたもので、よく粗氈に見る模様であります。此三角で全面に活氣が添へられて居るのであります。

底邊の上に立つて居る二等邊三角形は、對勢的平衡を代表して居ります。頂點に集中する邊は、其の方向に人の注意を惹き、且統一ある活動を感



じさせます。藝術上の三角形の用法の例は、建築でピラミッド、及寺院の破風等に顯著であります。



繪畫と圖案に於ては、三角形は統一の原則となりて居ります。風景畫で列樹なみきを示す時に用ゐる通景ツイタテは注意を集中し且其の中に聯關して

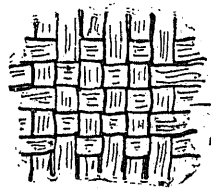
在る部分を統一するに有效な事は、パッフォー女史の指摘して居る通りであります。其の論に「宗教畫」殊に玉座の聖母を描いた神壇背後の繪に於ては、圖形はピラミッド又は三角形に近く、聖母の頭は大抵ピラミッドの頂點になつて居ります。廣い底邊と頂點との對照は、堅固及安靜の感じを起させるものであります。又繪の中心より上に眼をつけやうとする傾向は、直ちに敬虔・崇拜等を伴ふ氣分を誘致すると考へても差支は無い様であります。斯くしてピラミッド形は、二つの目的を達するものであります。第一には統一を與ふる事、第二にはその形の特異に依つて、繪の題目にふさ

はしい情調を誘致する事であります。

正方形

邊の上に立つて居る正方形は、堅

固と力との印象を與へ、素朴で且つ剛健であります。これは圓や正多角形程集中的ではありませんが、線の直正と構造の簡單とのために、それらより一層原始な粗豪なものに見えます。正方形の反復もしくは格子縞は、裝飾の形の中、最も古いそ



して最もありふれたものであります。これは多分此の圖の様な織物の模様から來たものでありませう。反復的正方形は、凡ての格子模様の基礎で、色、幅及

び入れちがひになる位置の集合をいろ／＼にすれば、面白い變化を澤山作る事が出來ます。正方形に關する主な模様は希臘の物の縁かぢによく使はれて居る卍形、鍵形、及東洋風の粗氈かまがねによく出て來る饌かまがねの模様であります。繪畫に於ては、正方形は三角形程統一的な集合になつて居りませんが、彫刻

及建築に於ては、正方形及立方形が大切な形であると云ふ事は後に説きます。

長方形 長方形は窓扉・繪の枠・本・鏡板・

粗氈等の輪廓として、雖でも見馴れて居ります。

正方形から殆ど縞又は線としか見えぬ位の細長い矩形に至るまでのいろいろな割合があり、其の多くの形の中で、特に釣合の好い感じを起させるのがあります。澤山の中で特に氣に入るのがあるか、あるとすればどれであるかを知るのは面白いことで、これは始めて系統的に實驗された問題でありますから、美學史上特筆に價するのであります。

ツァイジンクは十九世紀の中頃に、凡ての律中黄金律を最美のものと致しました。同氏は最も完全なる變化中の統一が、この律に表はれてゐるのを發見し、且これを廣く自然的形及藝術的形の標準に適用しやうと致しました。黄金律とは、小さな部分の大なる部分に對する割合は大なる部分の

全體に對する割合に等しいと云ふ全體の分け方でありませす。即ち $a:b = b:(a+b)$ 又は $5:8$ であります。

フェヒネルは此の黄金律の快さを試めす爲めに、圖を幾組も揃へて實驗をしました。試験の中には割合の異なる矩形を十個比較させるのもありました其の形の律は、

$1/1: 6/5: 5/4: 4/3: 29/20: 3/2: 34/21: 23/13: 2/1: 5/2$

以上の形を不秩序に散らしておいて、被験者に最上のと最劣のを選ばせました所が、 $34/21$ 即ち黄金律が最も多く最上とせられ。 $3/2$ 及び $23/13$ が其次で、最劣は $5/2$ でありました。併しフェヒネルが長方形の最上の比を他の簡單な形に應用して見た所が、最上の比とは云へなかつた事は、一寸附言する必要があります。

具體的藝術品に於ては、矩形の場合ですら、黄金律が最上の比であるときまつては居りません。如何となれば、全體として圖案に對する任務と附隨する他の形狀との爲めに、非常に制肘されるか

らであります。

曲線

水平線を穏和と云ひ、垂直線を野心的を云つた佛國の美學者シュリーは、曲線を逸樂的と呼んで居ります。曲線は一般に直線よりも美とされて居ります。これには或直線の様な峻嚴な所が無く、優美でしなやかであります。起伏のある水平線は、眞直なのよりもんびりして居り、些かうねつた上向線は、眞の垂直線ほど嚴正な固いものではありません、心持のよい曲線も澤山あります、こゝには立つたものについてだけお話し致しませう。

圓周及弧

圓は完全の象徴であつて、充満と終了の印象を興へます。此の爲めに藝術製作の要素に使ふにはむづかしいのであります。ラスキンは圓は曲線中、最も美の劣るものとして居ります。廻れば元に還る外ない曲線より、外へ出て何かと織り交る曲線の方が有効であります。バーン・ジョーンズの繪畫「創造の日」に於ては、世界の圓線は

殆ど完全な輪廓で、圖の注意の焦點となつて居りますが、其爲めに全體が引立つ程の効果はありません。此の連續的な曲線は餘り單獨で外の線にも及ぼしませぬ。斯様に完全な圓線は、圖案の眞中におくと面白く無い代り、境界線もしくは統轄線としては有効であります。ポッチェリは圓を繪の完全な形とし、其の繪畫の中には、圓線が作全體を制限してゐるものもあります。繪畫構成上の圓型とは、其の集合が全體として、ざつとした圓を成して居る（斯うして統一が出來ます）ものと云ふのであります。尤も中に描かれた形像の線は、圓と非常にちがつて居ることもあります。

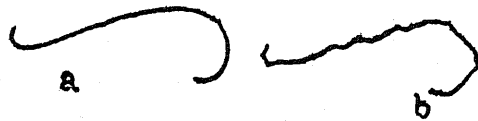
弧線若くは新月形の線は、完結を暗示しては居りますが、圓線の様な固い完全の感じではありません。建築に於ては、半圓線は視界の上部限界として、最もよく用ゐられます。半圓は建物の内部に包れて空間の纏まりをよくし、又外側から云へば、穹窿の弓なりの線は建物を申分なく完備させ

て居る様に見えます。尖頂の半圓は、圓い半圓の満全と纏まりとを幾分保ち乍ら、上方に尖がつてゐるために宗教的向上心も暗示して、圓い半圓と三角形との効果を共に收めたものであります。これはゴシック風の建築の特徴たる美であります。

圓線と關聯した重要な形は、螺旋形及放射形であります。此うち螺旋形の方は集中力に於て勝さり、放射形の方は自由の點に於て勝さつて居ります。「其の知覺及表出が、特に圖案製作に活氣を添へる原則以外にも、原則があると云へるものならば、それは即ち此の放射線の原則である」とクレーンは云つて居ります。

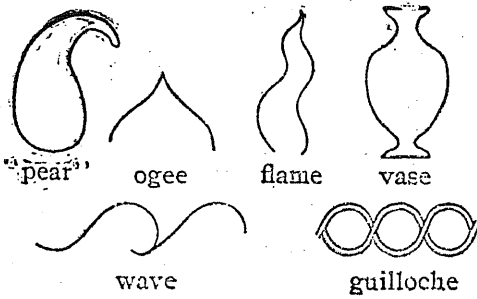
蛇線　　ホガースは最も完全な「優美なる線」は蛇狀若くは波形の幾分S字形の様な線であると申しました。彼の説の通り、方向の多様なことは確に此の美を成す重要な要素であります。何故下段の圖のaがより快いか、何故蛇狀の線は好かれるかといふ理由に對する説明がいろいろありま

す。以前行はれた説明はaを追ふていく時は、眼



は平坦な一貫した道を行くに過ぎぬ。然るにrの場合には粗いさざ／＼した道を過ぎねばならぬ而してrの時よりもaの時の様な運動の方が快いからであると云ふのであります。即ち眼の運動の安易が、快感の根抵と看做されて居つたのであります。然しストラットンの實驗で、此説は破られました。彼は滑な蛇狀の曲

線を追ふ時の被験者の眼の運動を、寫真板に記した結果、さういふ眼の運動は、決して滑らかな一貫した性質のものでは無く、事實醜いさざ／＼な線を追ふ時の眼の運動との間に、根本的な差異は無いのが分かりました。此事實は、眼の運動は美的鑑賞の根抵とするに足らぬ事を證明して居りま



す。又我々は殆ど眼を動かさずに曲線を観る事も、それを判断することも出来るとも云へます。併し眼球運動は快感の根源であるとは云へぬまでも、僭曲線は身體の外の部分に、滑らかな安易な運動を暗示するものだと云へます。少くとも我々は、手足や頭や腹や足を蛇狀に動かして見て、斯う云ふ運動の方が經濟的でもあれば力も籠もりやさしくもなるのを經驗することは出来ませう。さう云ふ運動の記憶、及半ば無意識的なさういふ運動を、蛇狀の線に對する美的鑑賞の基礎であらうと假定しても宜さうに思ひます。

波狀の線を表はして居る形式的傳來の模様の中には、波斯の敷物

によく見る河流輪又は梨(pear)の模様も、鳩胸剗形(ogee)の半圓、在り來りの波(wave)、火炎(Flame)、繩形裝飾(guilloche)、希臘の花瓶(vase)等もあります。

一般學說との關係 視覺對象に留意して居

る間、觀照者のする運動については、前にも申しましたが、重ねて云へばかういふものを見る時には、人は或意味に於ては其の對象を真似るとも再現するとも云へる態度又は身振りをする傾があります。此傾向をグロースは「同情的再現」又は「內的摸倣」と呼び、リップスは對象への「感情移入」と呼んで之を美的鑑賞の基礎として居ります。上には簡單な線に反應する運動のみに就て述べましたが、此說の正鵠を得てゐることを一層よく知らんが爲には、もつと複雑な視覺對象に對する態度の詳細について、考へる必要があります。リーとトムブソンとが對勢の瓶を觀察して得た内省の記録は其の適例であります。

「此の瓶を見て居ると、一つの纏まつた全體と云ふ特種な感じを得る。身體的感覚は、非常におちついて平均して、各種が相聯關してゐる。眼が瓶の底に据はると、先づ兩足かピッタリ大地を踏み据える。次に自分の身體を舉げ起こす様にして、瓶の胴の取つ手に伴ふ。又頭を稍や下方へ抑さへつける様にして、瓶の頂の廣い邊の下壓的なものを感ずる。其間に瓶の平等な兩邊は、左右の肺の運動を平等にし、瓶の兩邊の外側の曲線は、眼が瓶の最廣部に動いて行くと同時に、息を吸ひ込ませる。次に呼吸が始まつて眼が内側の曲線に添うて行ふ間、肺は靜かに潰崩する様に思はれる。やがて眼が頸部の細い所に達して、頂の廣がりまで傳はると、又短かい吸氣を起す。のみならず瓶の形が均衡の運動を起させて、左の曲線は左足に、右の曲線は右足に、變化を起させる。眼が此の瓶を見ると共に、完全な且平等にゆき渡つた身體の調整が行はれた。此の吾々自身の中に於ける運動の總計

と運動の和合とが、此瓶に調和せる一完全體であると云ふ智的事實となるのである」

先づ感覺刺戟があつて、次に本能的な身體の反應が起り、其の反應の「感じ」を對象に對する美的の「感じ」と斷するのでありますから、此の説は徹頭徹尾ジェームスの情緒説と符合して居ります。

又これは彼の衝動の衝突又は不同を必要としたデューエーの説の要點とも、よく合つて居ります。如何となれば、平均せる兩側は、相反せる方向への運動と刺戟します。そしてかう云ふ駁雜の分子が無ければ、情緒的感奮の如きものはまるで得られない筈がないからであります。

今述べました様な内省的研究に添へて、斯う云ふ生理的反應を實驗して得た報告があれば、此上もなく面白からうと思ひます。眼球運動の撮影は色々な形を見たり考へたりする時行はれる運動の比較研究まで及ぼし得る重要な手段であります。尤もさう云ふ試みは、今日までは成功して居りま

せんが、身體各部の無意識的運動、及び全體としての身體の運動等は、記録するも出來ますし、此問題に光明を點するものでありませう。ジャスト

ロッフは、無意識運動をいろいろ研究した結果、實際官能に提供されるなり、單なる想像に留まるなり、兎に角與へられ居る對象について考へる人は、其の對象の方向若くは想像裡の方向に向かつて運動を始めるのが分かりました。飽迄ちつとして居やうとしても、猶被験者は其の注意を惹く事物の方に手・首・又は全身を動かすのであります。同氏は或實驗に就て次の如くに云つて居ります。——「メトロノームの音を數へさせておく中、それを室の一方の角から次へくと移して行つた處が、被験者の手はひとりでにその方向を追ふて殆ど完全な正方形を記した」と。これに依て垂直線・水平線・螺線等に伴ふ各個有のひとりでの又恐らく無意識の運動を發見することが出來ませう。斯う云ふ運動の研究と共に、各種の線及形の觀察に、隨

伴する呼吸及心臟鼓動の各種の型と律とを考究する事が出來ませう。